

## 加古川中央市民病院増築・改修整備事業に係る落札者の決定について

地方独立行政法人加古川市民病院機構契約規程第12条第2項の規定に基づき、2021年4月9日に入札公告を行った加古川中央市民病院増築・改修整備事業（以降、本事業という）に係る事業者の選定については、本事業者選定委員会での審査を経て、落札者を決定しましたので公表します。

### 1. 落札者

	落札者
グループ名	株式会社大林組神戸支店
代表企業	株式会社大林組神戸支店
構成企業	単独
入札価格	2,900,000,000円

※入札価格は消費税及び地方消費税を除く。

### 2. 提案審査結果の概要

評価区分	提案受付番号
	1
価格評価点	700.00
提案内容評価点	202.50
総合評価点	902.50
	落札者

※ 提案書提出者は受付番号1のみで、他者からの提出はなし。

### 3. その他

落札者に係る審査過程及び審査講評については、後日、本ホームページにおいて公表予定。

2021. 07. 15

加古川中央市民病院増築・改修整備事業者選定委員会の事業者選定に係る  
審査経緯・結果及び講評について

加古川中央市民病院増築・改修整備事業（以下「本事業」という）に係る事業者選定については、地方独立行政法人加古川市民病院機構（以下「機構」という）の規約規定に基づき設置した本事業の事業者選定委員会（以下「選定委員会」という）により入札説明書に示す落札者決定基準に基づき公正かつ厳正に審査した結果、「株式会社大林組神戸支店」を最優秀提案者として選定し、機構は、選定委員会の審査結果をふまえて同社を本事業に係る落札者に決定したもので選定委員会の審査経緯及び講評内容について以下に公表します。

1. 入札及び審査経緯について

- |       |          |   |
|-------|----------|---|
| 2021年 | 4月9日（金）  | 入札公告（加古川中央市民病院ホームページ）、<br>同時に入札説明書類に関する質問の受付開始                                      |
| 同年    | 4月23日（金） | 同上 質問締め切り   |
| 同年    | 5月7日（金）  | 同上 質問の回答を公表（同上ホームページ）   |
| 同年    | 5月12日（水） | 入札参加表明書類受付<br>参加表明書類提出者は1グループとなる（受付番号1）   |
| 同年    | 5月14日（金） | 受付番号1グループの入札参加資格条件審査の結果<br>「資格あり」を確認し結果を通知し文書発送                                     |
| 同年    | 6月18日（金） | 入札、提案書類受付及び開札を実施<br>提案書受付は受付番号1グループのみ<br>同上グループの入札金額が本事業の予定価格以内であることを確認             |
| 同年    | 6月29日（火） | 選定委員会により受付番号1グループの評価（提案書及びプレゼンテーション内容を含む）を行い、最優秀提案者として「株式会社大林組神戸支店（以下「株大林組」という。）を選定 |
| 同年    | 7月7日（水）  | 理事会において選定委員会の審査結果をふまえて本事業の落札者を株大林組とする決定を承認  |

2. 審査講評

本事業に係る選定委員会の講評内容は別紙のとおり。

## 加古川中央市民病院増築・改修整備事業者選定委員会 講評

加古川中央市民病院増築・改修整備事業  
選定委員会 副委員長

## (総括)

本事業は、加古川中央市民病院が東播磨医療圏域の基幹病院として地域住民から真に頼られる医療機関としてその使命と役割を果たし続けるために、施設面における現状の課題を増築と改修により解決しようとするものであり、変わりゆく今後の医療ニーズに的確に対応していくことが求められている。

このため提案にあたっては、将来を見越した高度専門医療施設の充実と、外来診療部門のスペース拡大を前提とし、医療従事者をはじめとするスタッフの執務環境へも配慮するとともに災害や感染症まん延時における医療提供体制の維持強化など多様な機能をどのように実現していくのか総合力が問われることとなっている。

また、本事業の実施にあたっては、工事と病院の稼働の両立や既存の建物の免振機能との整合など通常の事業以上に難題の解決も想定されている。

こうしたなかで、本委員会は、提案の作成に多大な労力を提供いただいた応募グループに対し、深く敬意を表するものである。

本事業の応募グループは最終的に1事業者となったため、複数の提案を比較することはできなかったが、評価にあたっては応募グループの提案書類および提案にかかるプレゼンテーションをもとに要求水準の達成を前提として、要求水準を上回る提案に対して加点する方式を採用し、複数の評価視点から提案内容を慎重かつ公正に審査し、最優秀提案者を決定したところである。

## (評価概要)

まず、価格評価については応募者が1社のため落札者決定基準より700点配分点の満点となっている。入札提示金額は予定価格と同額であり、最近の他の入札事例、経済情勢を反映したものであると推察される。

提案内容の評価については、配分点を300点として審査項目、評価の視点を事前に示しており、これに基づき評価を行った。

建築・施設計画については入札説明書・基本計画に示した延べ床面積5,900㎡程度に対し提案された規模は延べ床面積5,812.27㎡とやや少なく提案されている。その中で機構が本事業目的の大きな課題とする5F,6Fの医療・防災系の備蓄倉庫の整備拡充計画(237㎡)に対し、提案では93㎡と小さく、基本計画書の意図を汲みとり切れていないものとなっている。

既存病院等との一体性について、連結部の既存屋外階段を合理的に流用して活用する案を提示されている。経済性からは評価できるものの、合理的な空間計画や既存との連携・機能を追求するためには、

この部分が防災上を含めて計画の制約となる。

働きやすく学べる病院としての機能については、増築棟のコア部分が集約されたコンパクトな計画となっておりすっきりした計画が期待できる。2階外来待合にアートスペースが大きく提案されているが、オプションであり本事業が主たる目的としている待合の狭隘な環境を改善することに対する意図に沿ったものとはいえない。診察室の配置は、既存本館のホスピタルストリートが既存階段を残す計画のために2本あるメイン通路が一本に絞られたような状況となっているため、奥の診察室では患者アクセス距離が長くなり、密状態を緩和する目的にも不安が残る。患者相談室の待合とがんサロン待合動線が重なるため、双方の患者にとって好ましくない配置となっている。これら、既存屋外階段の残置計画が自由度を阻害しているため、実施に向けては、さらなる発想転換と根本的な改善策が望まれる。

5階小児病床の配置計画では、計画で近接していた増築棟とのスタッフステーション（SS）と改装部SSの配置が分断されることで看護の負荷が増えることになる。実施に向けては既存を含めた動線の見直し調整が求められる。最上階（6F）に大スパンの無柱空間を要する大ホールが配置される関係で、ホール利用時の人流に対するエレベーターの搬送能力については、ホールの使用頻度との兼ね合いを考慮して待ち時間をどの程度に設定するのか、階段利用者と組み合わせた輸送能力等について機構側と事業者双方の納得の行く合理的な調整が必要である。

自然環境への負荷低減について、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）Aランクを目指すところである。既存本館は既に最上位のSランク取得済である。入札説明書の必要条件がAランク以上で、その条件を満たすものの、既存同等を目指す意図が示されなかったのは残念である。

構造的には、建物規模が大きく異なる2棟の免振構造建物（既存11階建て、延べ床面積≒48,600㎡、増築棟6階建て、延べ床面積≒5,800㎡）の建物を1階の免振層で連結する非常に難解な設計が求められる。大臣認定取得と合わせ、元施工である提案者の強みをいかんなく発揮し、滞りない許認可に繋げてもらいたい。提案者の技術力に期待するところは大きい。

自然災害時の機能継続性については、既存機能を踏襲しているものの非常発電能力、免振ピットへの洪水などの流入対策などに対する新たな提案はなかった。

施工体制については、非常に狭隘な敷地条件の中での稼働しながらの工事であるが、工程管理と合わせ十分な安全確保がなされるものとする。

こうした点を踏まえて、最優秀提案者へは今後、本事業を進めていくにあたっては、こうした意見を十分に考慮のうえ、デザイン・ビルド方式のメリットが効果的に発揮されるよう、機構とグループの間の信頼関係と協働体制をしっかりと構築し、本事業がより良いものとなるよう、さらなる尽力を強く期待するものである。